



石巻市を見渡す高台から満開の桜



お団子を持って山伏と記念撮影(郡山市)



美味しそうなお団子を避難所の皆様へ(加須市)

震災の傷跡もなかなか癒えず、それどころか、治まることのない放射能の恐怖、余震・・・なんだか不安ばかりがつつのる落ち着かない日々が続いています。

嫌な事を挙げたら、山のようで限りが無いので、せめて心がホッとすることを考えようと思う日々です。

津波で幹をばっさり折られた桜の木が、満開の花を咲かせました。枝は折れて地を這うようになっているので、土色の瓦礫の中に桜色の小さな花園があるように見えました。地元の人達は、倒されてまで、このような美しい花を咲かせる桜に、勇気をもらったと語っていました。

ある避難所で、家も家族も全部失って一人きりになってしまった男性の方が、やはり一人だけ残された隣のおばさんの面倒をみていました。

『もう死んでしまったほうが良

### 誰かを助けることが自分を助ける

シャンソン歌手 友納 あけみ

いと思ってたけど、おばあちゃん  
の面倒を誰かが見なくてはい  
けないから生きてなくちゃね』  
と小さく笑って話していま  
した。「人」と言う字の通り、誰  
かを助けることが、自分を助  
けることになるのかもしれない  
せん。

生まれてからずっと海と共に  
に生き、漁師として海で働いて  
きた老人は、こんなことあつて  
も、

『海は宝だ』  
と言います。

『波の音の間こえない、潮の匂  
いのしないところには住めな  
い・・・何度同じ目にあつても  
ここに家を建てる』  
とも言います。

『涙も出ないから、笑顔で暮ら  
していくさ』

一人のおばあさんが、はにか  
み笑いを浮かべて、ぼつりと  
言っていました。

被災地のお年寄りたちにマ  
イクを向けると、離れて住む子

供や孫の名前を呼び、誰から  
も

『私達は何とかやっているから、  
大丈夫。心配しないで、そちら  
は大丈夫ですか？』  
と気遣いが聞こえてきまし  
た。ご自分達のほうが、ずつと  
ずっと大変な状態なのに・・・  
大きな自然の前に人間は弱  
いけど、しぶといし、優しいし、  
遅いとも思えました。被災  
地から聞こえてくる言葉には、  
力があります。心が動かされま  
す。今まで薄ら寒く感じていた  
言葉に、真実が戻ってきている  
気がします。どこか上滑りだつ  
た日々が、あの震災の日から、  
どつしりと感じられます。たく  
さんのことを考えさせられ、気  
付かされました。「生きがい」  
ではなく、「死にがい」という言葉  
があるとしたら、この亡くなら  
れた多くの人達の命が教えて  
くれたこと、残してくれたこと、  
伝えてくれたことを、しっかりと  
見つめて、心に刻まなくては  
と思っています。

被災地に向けて、新しい歌  
を作りました。少しでも何か  
が届けばと歌っていくつもりで  
す。穏やかな日々が戻ってくる  
ことを、ひたすらに祈って・・・

合掌



黒須八王子市長に義援金を手渡す大山御曹首

高尾山では、被災地復興の  
為に、御護摩受付所前に募金  
箱を設置して、多くの参詣の  
皆様に義援金を募り、また、信  
者の皆様に義援金振替用紙を  
配布致しました。

去る四月十九日には、東日  
本大震災被災地復興を祈り、  
御山主と当山役員の榎崎彰男  
様、小阪八郎様、伊奈稔様の三  
名が八王子市役所の黒須市長  
にお会いして、御信徒様の義援  
金、薬王院、当山役員からの義  
援金を、被災地の皆様に届け  
るようにとお渡し致しました。

また、四月二十一日から二  
十三日まで、五月十六日から  
十七日まで御山主の指示によ  
り高尾山職員の僧侶三名が、  
津波被害の大きかった宮城県  
石巻に救済物資を車に沢山積  
んで、ボランティア活動に参加  
しました。そして五月十日には  
福島県郡山の避難所のビック  
パレット、十二日は埼玉県加須  
市の避難所の旧駒西高校へ、高



石巻市の寺の墓地



被災地の惨状

尾山職員四名がボランティア  
活動で(株)アーバン職員と一緒  
に、避難所の皆様に温かなお  
団子を配りまして喜ばれまし  
た。

引き続き、被災地復興の救  
済募金活動を行っていますの  
で、御信徒皆様のご協力をお  
願いします。高尾山では被災  
地が一刻でも早く復興するこ  
とを願っております。



眼前の津波被害に驚く

東日本大震災  
国土安穩・被災地復興と支援